



子宮頸がんワクチン接種について

問 積極的勧奨の再開により、定期接種対象者およびキャッチアップ対象者への周知状況を伺います。

答 保健福祉部長 小学6年生から高校1年生までの定期接種対象者841人に対しては令和4年4月に、また、接種機会を逃したキャッチアップ接種対象者1298人に対しては同年6月に、個別の案内を郵送しています。

有効性や副反応について確認できる国や県ホームページのQRコードを印字した案内文とともに、予診票や接種できる市内医療機関の一覧表を同封しました。

問 従来のワクチンよりも高い感染予防効果があるとされる9価HPVワクチンの、令和5年4月からの定期接種化に向けた、市の対応を伺います。

答 保健福祉部長 新たに小学6年生となる新規対象者には、個別に案内

を郵送する予定です。

また、9価HPVワクチンの定期接種化について、広報誌やホームページで周知を行うとともに、接種にご協力いただく医療機関からも、保護者や対象者向けに周知をお願いする予定です。

問 本市の学校プログラムの一環である「がん教育」の中で、ワクチンに対する正しい知識を学んでもらいたいと考えますが、見解を伺います。

答 教育部長 昨年度、小学6年生以上を対象に、HPVワクチンに関する概要版パンフレットを配布しており、児童生徒に限らず、保護者にも正しい知識を得てもらえるよう努めました。

今後も、児童生徒や保護者、教職員にも、正しい理解が深まるよう、あらゆる機会を設けていきたいと考えます。

子どもの未来を守る施策について

問 3歳児健診における視力検査の検査方法について伺います。

答 保健福祉部長 健診前に送付する通知に視力検査の方法を同封すること、あらかじめ家庭で検査を行っていただき、その結果を問診票に記入のうえ、提出していただいています。

問 家庭では正確な測定が困難であると懸念されますが、見解を伺います。

答 保健福祉部長 市では、精密検査受診票を発行し、眼科医療機関での受

診を勧奨しています。

問 視力は6歳から8歳頃には完成すると言われており、日本眼科医会では、3歳児健診での屈折検査機器（フォトスクリーナー）等を用いた検査の実施を推奨しています。市では機器導入の考えがあるのか伺います。

答 市長 屈折検査機器の活用は、早期発見、また早期治療につながるということは認識しています。

しかし、検査場所や人員の確保、検査機器の保守管理等について課題がありますので、先行自治体の実績等も踏まえ、導入を検討していきます。

買物弱者対策について

問 移動販売設備の取組の経緯について伺います。

答 保健福祉部長 令和3年度より山武市商工会の協力のもと、市内スーパーマーケットを拠点とした「移動スーパー事業」の実現可能性を模索してきました。その中で、(株)セイミヤ松尾店にて、個人事業主となる

販売パートナーとの契約が整い、令和4年9月13日から、移動スーパー「とくし丸」の市内第1号車が営業を開始する運びとなりました。



移動スーパー「とくし丸」

問 現在の移動販売車の台数および移動コースの数等を伺います。

答 保健福祉部長 現在は販売車1台で、利用者の自宅など、1日あたり約40か所を1コースとしており、国道126号線より海岸側の地域に3コースを設定しています。

回数は週2回ずつの巡回で、週6日営業しています。

問 移動販売員の仕組みと販売パートナーの募集方法を伺います。

答 保健福祉部長 販売パートナーが個人事業主となり、提携スーパーから販売委託を受けて行う事業形態です。このため、開業時には初期投資として車両の購入が必要となる一方、日々の仕入れや在庫を抱えるリスクはない仕組みとなっています。

販売パートナーの募集は、とくし丸本部とセイミヤ本部のほか、山武市商工会および(株)セイミヤ松尾店店頭でも行っています。市でも、今後、ホームページ等で周知します。

問 買い物が不便な市内地域への今後の方向性について伺います。

答 市長 利用者宅を訪問する、とくし丸の事業形態は、買物難民対策として大変有効であり、引き続き、市内第2号車の実現につなげていきたいと考えています。

併せて、とくし丸以外の事業者による移動販売の実施も、地域の特性を踏まえつつ、関係者と協議していきます。

個人質問